

コストも日建連へ要望書提出

災害復事業の話題提供
全国7都市で技術講習会

で17年度度別講習会を開いた。会員をはじめ免状宣誓やセコシ、セメントメーカなど約120人が参加した。

講習会は、国土交通省水管理・国土保全局防災課の丸日登志災害査定官が「災害復旧事業に

ます」今年の災害番組として最近の話題と紹介。昨年は正月の大地震をはじめ、6月梅雨前線豪雨による8・1号で東北は巨震、河川の氾濫や浸水被害が発生した。その後

の土系職員数が減
同にあり、インフラ
は技術力や経験の蓄
持管理や災害対応に
は技術力や経験の蓄
承が困難になって
いる。村の約5割に
職員がおらず、約6
と約9割の村は同
数が5人未満とい

東京会場は120人参加

木の撤去に着
手した。

また、公共
土木施設災害
復旧事業の概
要と課題、お
よび課題への
対応状況を説
明。緊縮財政
や行政改革に
伴い地方公共

の緊急的な河
道の確保に向
う、土砂や流

 **BLEX**
let's make a good space

品談話室

門は土木で、杭分野でも有識者の第一人者として活躍中だ。

天国の

大学院の学生当時、1年間休学し自転車サハラ砂漠を縦断した。日本と世界の

を選はず、かつ普通に
 帰ってゆくことに掛
 けた」という。研究室
 でも異色の存在で、学
 生から鬼軍曹と呼ば
 れてゐるが、私は天国
 と閻魔大王と称してゐ
 る。私に烈火のごとく
 燃え尽きた卒業生は、合
 評論家として再興期を

全然怖くないと言つて
 いた。
 日本映画の鑑賞も柳
 味と「5年と5カ月本
 間、邦画を毎日1本ずつ
 見続けた34年4本を
 数えた。人格がどう変
 わるか、一種の肉体事
 験だったが、結果は眼
 面にも何の凄くもない
 った(笑)。もうじき

による被災状況調査や応復旧等の支援、および省災害査定官による技術的支援・助言が求めらる。

千葉県での災害は南部集中し台風被害が多い最も甚大だったのは東日本震災による液状化被害

京木を5万ギブ走った。同

「近のコンクリート技術」と題して講演。高炉スラグやフライアッシュなど副産物系資材の特性とその

報告として千
災害査定手續
やICT技術
をめぐって
現況
を
立地や、河
取水、我孫
子市など旧
川の埋め立
てに被害が
集中して
同講習会は
東京を皮切
りに6日に
札幌で開催
付て一部事務
所の名古屋
三井物産
インフラサ
イティビ
ンク

備部河川環境 室の高柳昌司 栗原の災害 被災状況や災復 を説明した。	秀技術委員が「土木用コ ンクリートブロック製造 指針」について解説した あと、首都大学東京学 院の上野敦教授が「最	山（19日）、福岡（20 日、大阪（1月1日）、 名古屋（同月9日）で開 き予定だ。	は左記へ移転した。
スマート フェア	のシステム」とオミク ス利用による新世代栽培 技術開発コンソーシア	産なスマート農業サテッ ルの構築を目標に取り組ん できた成果を紹介し、意	番号の変更はないが、住 住所「那覇市宇 6-14-5 ヒロマ

10153)

断熱・省エネセミナー開催

日本建材・住宅設備 建築

日本型の超省力・高生
水管理システム、低価自
機、管理機など、自動
化、省力化、田植え
（トラクター）、田植機
（コンバイン）を開
く。定員300。

マース農業フェア」を
研究拠点で「SPS
新工学研究センター」に
戦略的イノベーション
促進プログラム
次世代農業技術の「高品質
」に達成す

の農研機構農業技術研
究工学研究センター

の普及拡大を目指すた
めフェアが企画された。

[illegible]

予定の「レジェール」
 の不具合の発
 生も抑えられ
 る。12年月
 に発売し、価
 格は2500
 円。審査委員
 育てたい」と述べる。

コーナーボー
ド。R加工
字型の出隅用
で、小さな子
供のいる

来年3月発
出隅部を素早
く簡単に綺麗
に施工でき、
コーナーRは
2R、15Rが選べる。小
さなRでも安全性を確保
できる、小さな子供がいる

性社員配属が始まって
おり、早期育成を図り

部長
セメント
夢田
宇部
上

人合格
た。もう
そと決意
示して
いる
類を緩

けるだけの
や、バテによ
理を不要にし
の施工間を
できただけ
と評価された。

施設で活用できる。職人
の数が減っている建築現
場の施工間削減（省
力化）としても有効」だ
と評価された。

る。

そうした中で昨年
度、女性社員（中から
2人のコンクリート主
任技士が誕生した。美
容院でも専ら読む
など寸暇を惜しんで励
んだことが実を結んだ
謝の弁を述べる。

挑単

さらに
在コン
リート技
士は
資格を取得して上
性社員も後に続い
ており、「いい刺
を与えてくれた」と



かづお・とおる

旧名古屋工業大学短期大学部卒業、同年4月愛知県工
業試験所、1954年4月石原工業㈱、1955年4月名古屋アサノコン
クリット、1960年10月大有道路建設試験課長、1974年10月中
央研究所、1979年10月取締役兼中央研究所長、1991年10月常
務技術本部長、1995年10月専務取締役本部長、1997年8
月取締役副社長、2001年10月顧問、2009年4月退社、1997
年専務コンクリート㈱取締役技術本部長を兼務（2011年
まで退社）。2002年5月NPQ法入コンクリート技術支援機
構を設立。

工学博士、技術士（建設）、コンクリート診断士

エココンクリート工業組合連合会における委員歴>
 1月～1997年6月技術委員会委員（東海地区本部および
 全国本部）
 1997年1月～1997年6月技術委員会委員（兼務）、1997年7
 月～1997年6月技術委員会委員長、1997年7月～2009年6月
 会長、2009年7月～2011年6月技術部副委員長、2011年7
 月～5月技術委員。
 10月～1997年5月新技術開発研究専門委員会委員長、
 10月～1999年5月構造改善推進特別委員会品質保証部
 長、7月～6月一生全組構造管理推進委員会議員および委員
 長、2009年6月委員を退任、2011年6月、委員会会長を
 2009年6月～2014年3月技術部会長、構造改善（技術
 主査、JIS A 5308改正準備委員長。
 7月28日生まれ。

技術中

大分県

よし
 1951年
 木部
 リード
 央研発
 務総経
 月代表
 年4月
 5月同
 機測理
 資格等

大分県立総合技術委員会

論文や報告文など。
委員長を務めた吉
長きにわたって生

＜全国
1968年
愛知県
月～19
技術森
月～20
1984年
1997年
長、19
員会委
退任。
分野）
1932年

送料：350円

迷ぐ

リート

「から25年
に発刊
を網羅
(故政村兼一郎氏・初代全)

変化しました。前書は、研究主コン技術に関する資料で、5期12年間、全生工組技術士であり、前書と同様に将来す。

技術を語り
ンク

コンクリート技術史がすごい

術を巡る環境も大きく変化した。度々登場する有用な技術史」は、97年から100年にかけて書き下ろしたもので、活用されると思われる。

の生コ

主コンクリー の続編

5年が経過し、生コン技術者としての経験が豊富で、
|用文献として現在でも
る「続・生コンクリート
コン技術者の集大成と
語るための資料として

昭和と
結

前書「 待望」

技術

1991年9月

7年4月28日

コンクリート技術

吉 兼



続・生二

長期活用に
優れた
ハードカバー

C